

長野県

民俗の会通信

第306号

○「コレクション・マネジメント時代の「民俗」資料―いくつかのズレを意識化して乗り越える」を例会で開催した背景について……………樋口 明里
○博物館における民具収集についての雑感……………武井 成実
○書誌紹介 加藤幸治著『民俗学 フォークロア編 過去と向き合い、表現する』
『民俗学 ヴァナキュラー編 人と出会い、問いを立てる』 下平 武

「コレクション・マネジメント時代の「民俗」資料 ―いくつかのズレを意識化して乗り越える」 を例会で開催した背景について

樋口 明里

第二四三回例会では、「コレクション・マネジメント時代の「民俗」資料―いくつかのズレを意識化して乗り越える」と題して開催した。ここでは、このようなタイトルで例会を開催した背景と、当日お話しした内容について、エッセイのようなものとはなるが、若干の報告をしたい。

1 背景

近年、コレクション・マネジメントの考え方が検討され、「収蔵庫問題」が注目されている。昨年、奈良県立民俗博物館が展示室の公開を休止し、県知事が「同じような農機具を保管し続ける意味がどこにあるのか。未来永劫、県が保管する必要も無いし、スペースも無い。明確なルールを決めたうえで、価値のあるものは残して、それ以外は廃棄することも検討せざるをえない」(<https://www3.nhk.or.jp/news/nara/20240710/2050016463.html> 2025.02.05)等と廃棄に言及したことは、私

たち民俗・民具研究者や文化財関係者の間のみならず一般社会にも波紋を広げた。それに對し、日本民具学会が「民具（有形民俗文化財）の廃棄問題に対する声明」(https://www.mingu-gakkai.com/seimei_20240718.php 2025.02.05)を出すなどしている。

ここで議論の元となっているいくつかの問題は、今日急に生じたものではなく、長年の文化財・博物館行政において議論され、水面下で問題となっていたものと思われる。二〇二四年秋の例会でコレクション・マネジメントと博物館収蔵資料の関係について筆者が取り上げようと考えたのは、奈良県立民俗博物館における問題が話題となると同時に、長野市立博物館で学芸員として勤務するにあたり、筆者自身が大いに頭を悩ませてきたためである。そして、各地で頭を悩ませている学芸員や、これに危機感を感じている研究者がいるのではないかと考えた。そのため、やや粗雑な内容とはなったが、コレクション・マネジメ

ントと博物館の現状について扱うこととした。
2 コレクション・マネジメントと収蔵庫問題

コレクション・マネジメントとは、「コレクション管理」「博物館資料を整理し保存管理することを想起させる」(金山 二〇二二 九)ものであり、従来こうした簡単な見方で理解されてきた。しかし、金山喜昭は、欧米の「コレクション・マネジメント (Collections Management)」は、次のとおりとなっていることを紹介している。

「以前は所蔵するコレクションを保存管理するという秩序の確立と維持が基本であったが、現在はコレクションと関連情報の取得、受入、登録、目録作成、収蔵管理、アクセス・活用、そして処分などが含まれる (Simmons 2015)。さらに、それらをシステムとして機能させるために、「コレクション・マネジメント・ポリシー（方針）」を成文化し、博物館の目的やそれらの作業プロセスを明確化している。何を収蔵するか、どのようにコレクションを保存管理し、活用を図るか、コレクションが博物館運営の計画にどのように適合するかなどについて、一定期間ごとに見直し更新する。」(金山 二〇二二 九～一〇)

長野県民俗の会通信三〇六号

二〇二五年三月一日

会費年額 五、〇〇〇円

長野県民俗の会

振替 〇〇五二〇一三一三六五七

長野県民俗の会

E-mail : info@nagano-minzoku.chu.jp

URL : <http://nagano-minzoku.chu.jp/>